

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-81

学校名・団体名	南あわじ市立湊小学校
HPアドレス	<a href="http://www.minamiawaji.ed.jp/minato_es/">http://www.minamiawaji.ed.jp/minato_es/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	教科指導型日本語指導を 取り入れた指導の工夫について
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>教科指導型日本語指導とは、教科指導を通じて「日本語で学ぶ力（思考力、表現力など）」を育成することである。教科書を使用し、教科の単元目標の達成を目指して、配分された時数の中で授業を組み立てていく点は、教科指導と同じである。異なる点は、教科の目標の達成に加えて「日本語の目標」の達成もめざすところである。学習指導案の中の指導計画に「大切な言葉」が挙げられたり、本時の目標の中に「日本語の目標」が書かれたりする。そこで、今年度は、教科を国語科にしぼり、国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力、言語感覚を養う。特に、「書くこと」の領域を中心に授業研究を進めていく。</p>	

## 平成27年度 湊小学校 教科指導型日本語指導授業研究 報告書

南あわじ市立湊小学校 藤家克彦

今年度は、国語科の「書くこと」を中心に据え、教科指導型日本語指導に取り組んできた。特に下記で示した児童の実態把握や授業の計画・目標の設定、指導案の書き方などを意識し研修を繰り返してきた。

### 1. 児童の実態把握について 〈情意支援〉

児童の実態把握をすることで、過去の積み重ねを知ることができ、今、一人ひとりに必要なことを全職員が共通理解することができる。また、きめ細かやかな指導ができ、自尊感情の向上とともに学力向上にもつながる。

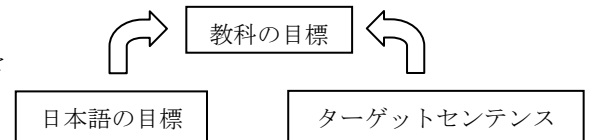
- ①教室の雰囲気はよかったか。(児童の様子・掲示物など) 〈自律支援〉
- ②子どもに対する励ましや褒める言葉がけがあったか。
- ③学習意欲を喚起する工夫がなされていたか。
- ④子どもの理解度よりも、やや高めの目標を設定されているか。
- ⑤学習量は適切だったか。 など

**自律支援**：自分の学習を管理して学習を進める力を育むための支援。

**情意支援**：情意的側面に留意し、子どもが自信や意欲を持って学習を進められる環境を作ったり、自分の感情をコントロールしたりできるようにするための支援。

### 2. 目標の設定について

教科の目標を達成するために、日本語の目標とターゲットセンテンスを活用する。毎時間教科の目標があるように、日本語の目標やターゲットセンテンスも基本的には毎時間設定することができる。



①教科の目標：理解させたい教科の内容

②日本語の目標：本時の「教科の目標」で示した内容を理解させるために、「日本語の目標」を設定する。

「日本語の目標」：習得させたい日本語表現（ア～ウをすべて入れる必要はありません。）

(ア) 教科用語の習得：教科用語（新出語や難語）の意味が分かることをめざす目標。

(イ) 学びへの参加につながる表現の習得：

ある表現を習得して、自分の意見や思考のプロセスを言うこと（書くこと）ができることをめざす目標。

(ウ) 表現力の向上につながる語彙の習得：語彙数を増やして表現力を育てることをめざす目標。

③ターゲットセンテンスとは：

本時の学習のねらいにせまるために、子供とのやりとりをする上で何度も登場してくる教師の発問や指示。

### 3. 指導案について

【①教材観】：今までの教材観は、その教材の解釈を記載することが多かった。しかし、大切なことは、その教材を使って児童にどんな力や言葉を習得させたいかである。また、その教材が、目標を達成させるためにどんなところに適しているかを記載することで、その教材を選んだ理由にもなる。

【②児童観】：児童の実態把握をもとに、児童がこれまでどのような積み上げをしてきたのかを記載する。過去の積み上げや今の積み上げを系統立てて記載することで、その児童に本当に必要な力が分かり、それが指導につながっていく。

【③単元計画】：全時間数の授業の内容を分かりやすく記載し、基本的には日本語の目標やターゲットセンテンスを毎時間設定する。単元計画のなかに、本時案も入れることで、全体の流れやその単元での児童の積み上げも分かり大変効果的である。

(＊教材観や本時の展開の例を下記に掲載している。)

### 4. ワークシートの活用

下記に示されたことを意識しながら、ワークシートを効果的に活用していく。

- ・板書に示されているものと同じ内容が、授業終了時に子どもの手元に残るようになっていたか。
- ・本時の重要概念や重要用語を子ども自身が書き込めるように工夫されていたか。
- ・理解力に差のある児童に対応できるよう、難易度や問題数を調整可能にしておいたか。

### 5. 成果と課題

児童の実態把握や目標の設定（教科の目標・日本語の目標・ターゲットセンテンス）、指導案の書き方（教材観・児童観・指導計画など）を研修することで、児童一人ひとりの今までの積み重ねや教科の目標が適切なのかを考えることができた。

そこで、今後は、さらなる学力向上を目標とし、教科指導型日本語指導を基本におきつつ、「読み」「書き」「聞く」「話す」のバランスのとれた授業づくりを検討していきたいと考える。特に教科の指定はせず、一人一授業（完全な指導案）を実施し、大阪教育大学臼井准教授にご指導いただく。様々な教科を通して授業を検討していくことが重要であると考えている。目指すべきは、教科指導型日本語指導での学力向上である。

**(例1)「教材観」(第1学年「たぬきの糸車」)**

会話や行動から登場人物の様子や気持ちを読み取る力を定着させると共に、他の文章からも登場人物の様子や気持ちを読み取る力を付けたい。特に、本教材に出てくる「キーカラカラキークルクル」「くりくりした」「くるりくるり」「びよこん」「びよんびよこ」といった声喩は、登場人物の様子や気持ちを読み取りやすく、おかみさんのたぬきに対する気持ちが変わっていく過程が、一年生でもわかりやすい構成になっている。そのため、この教材を使い、「○と○を比べると、□から△へと変わった」といった説明する力を付けさせるのに適している。さらに、登場人物に同化しやすく、「なぜきこりの夫婦は罾をしかけたのか。」「なぜおかみさんは、たぬきを逃がしてあげたのか。」など、さまざまな場面における登場人物の行動の理由を考えさせやすく、正しく「～からです。」を使って答える力も定着させることができる教材である。

**(例2)「単元計画の中の本時案」(第3学年「すがたをかえる大豆」)**

	主な学習活動、書く活動	単元を進める中で積み上げる言葉、文章表現の工夫	指導上の工夫・留意点
5 (本時)	<p>【国語科の目標】教師が例示した問題から、「すがたをかえるぶどう」を説明する文を書くことができる。</p> <p>【日本語の目標】「このように」を使って、まとめの文章を書くことができる。</p> <p>【ターゲットセンテンス】まとめの文章の書き出しは、「このように」を使います。</p>		
	<p>1. 本時の目標を確認する。</p> <p>2. 教師が例示したぶどうでできた食品や加工の順序を確かめる。</p> <p>3. 3つの食品がどのような工夫をされているのかを押さえる。</p> <p>4. 分かりやすい文について確認する。 「中」の文章を書く</p> <p>5. 「初め」「終わり」の書き方について確かめる。</p> <p>6. 「すがたをかえたぶどう」を説明する文をワークシートに書く。</p> <p>7. 自分が書いた「すがたをかえるぶどう」を説明する文を発表する。</p> <p>8. 本時のふりかえりをする。</p>	<p>・「加工」を表す言葉を探す。 ・「加工」を表す言葉の意味の確認をする。</p> <p>・干しぶどう→干す工夫 ・ジャム→煮る工夫 ・ワイン→小さな生物の力をかりた工夫</p> <p>・1つの文に加工を表す言葉は、1～2つにする。</p> <p>【これまでの学習をいかして】 ①順序を表す言葉の活用 ②具体例を示す順序の工夫 ③加工を表す言葉</p>	<p>・ぶどうでできた食品を3個用意する。 ・ぶどうが例を挙げた食品になるまでの加工の順がわかるように黒板に提示する。【理解支援】</p> <p>・「中」の文章の書き方を確かめる。書く順は、干しブドウ→ジャム→ワインの順で書く。</p> <p>・自分が書いた文章と比べさせながら聞かせる。</p> <p>・次時から自分が食べ物について調べ、紹介文を書くことを知らせる。</p>